

集合住宅における親メータと子メータの差水に関する事例報告（概要）

上下水道局 経営本部 営業部 東部営業センター 櫻井 堅太

本市の事業実施計画である「名古屋市上下水道経営プラン2028」において水道水の品質管理項目で、中高層集合住宅に居住している利用者が、受水槽を経由することなく配水管から直接新鮮な水道水を利用できるよう直接給水の普及促進を図るとある。本市では平成10年4月より直結加圧給水を導入している。

このように、本市において直接給水を普及促進している中、平成30年3月に給水方式を受水槽方式から直結加圧方式に変更を行った戸数扱いの集合住宅において局親メータと各戸私設子メータ総和の水量の差が増加するという事例が発生した。

その事例の原因を追究するため、配水管の水圧調査及びブースターポンプの調査を行った。その結果、ブースターポンプの二次圧力の変動が大きいことを確認した。この圧力変動幅を低減させるため、制御スピードの設定変更を行ったところ約10%あった差水量が約4%まで減少した。このことから、ブースターポンプの圧力制御スピードを変更することにより差水量を抑制できることが分かった。